

2012年1月16日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、足踏み状態となっている。

すなわち、輸出や生産は、海外経済減速や円高などの影響から、このところ弱含んでいる。また、企業収益が頭打ちとなる中、設備投資にもやや弱めの動きがみられる。もっとも、雇用情勢がなお厳しさを残しながらも徐々に改善するもとの、個人消費は全体として緩やかに持ち直している。この間、公共投資は、減少している。

先行きについては、海外経済減速や円高の影響に加え、電力の供給制約の影響にも注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、減少している。

輸出は、海外経済減速などの影響から、このところ弱含んでいる。

設備投資は、企業収益が頭打ちとなる中、やや弱めの動きがみられる。

個人消費は、全体として緩やかに持ち直している。

11月は、百貨店は、増床効果もあって、前年を上回っている。スーパーは、弱めの動きが続いている。家電販売は、地デジ対応商品でみられた駆け込みの反動などから、前年を下回っている。乗用車販売は、前年を上回っている。外食売上高は、堅調に推移している。旅行取扱高は、持ち直しつつある。

住宅投資は、全体として下げ止まりの動きがみられている。

11月の住宅着工は、持家や貸家は前年割れとなったが、分譲は前年を上回っている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、海外経済減速などの影響から、このところ弱含んでおり、在庫も高めの水準が続いている。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢はなお厳しさを残しながらも徐々に改善しつつあり、賃金も下げ止まってきたている。

こうしたもとで、雇用者所得は、前年比マイナス幅が縮小してきている。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、ゼロ%近傍となっている。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、緩やかな増加が続いている。

貸出残高は、前年を下回っている。これは、企業向け貸出において、資金需要が乏しいことに加え、住宅ローン伸び率の鈍化が続いているためである。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上